日本勤労者山岳連盟・静岡県勤労者山岳連盟

長泉裾野・麗峰山の会 (sine１９９４)

第２８期・８巻　　２０２２年　11 月号　　ＮＯ．255

仲間と仲間を結ぶ機関誌

すぽう

Susono Reihou Alpine Club

風の記憶

山行ＮＯ．１９９４
２０２２．０９．２５
八ッ・阿弥陀岳南稜

２０２２年度・１０月度例会資料　　２０２２・１０・０１

報告・当面の予定

０９月１４日（水）個＝富士山・雲海荘　２＋２名・・・・・お月見山行

１５日（木）個＝富士山　２＋２名・・・・・散歩

１７日（土）会＝富士山周回　６＋１名・・・・・キノコなし、イモ煮会

１７日（土）～１８日（日）個＝八剣山、高標山　１＋１０名・・・・・キャンプと登山

２１日（水）個＝富士山　１・・・・・キノコ

２２日（木）個＝富士山　１・・・・・コケモモだが、まだ、早い

２３日（金）個＝二ッ塚　１・・・・・カッパ登山訓練？？！！

３０日（金）個＝宝永山　１・・・・・キノコ

１０月０１日（土）会＝宝永山２３５２ｍ峰　５・・・・・キノコなし、お試し参加１名あり

０１日（土）～０２（日）２＋１・・・・・全国ハイキング集会・山口県

０３日（月）個＝石鎚山　２＋２・・・・・ハイキング集会の帰り

０４日（火）個＝三嶺～次郎笈（じろうぎゅう）　２＋２・・・・・ハッキリしない天気

０８日（土）会＝愛鷹連峰・ブナ観察とブナ植樹地整備　２＋４・・・・・ブナ、まあまあ

１５日（土）個＝荒沢岳　２・・・・・荒天の中、厳しい山だった

１７日（月）個＝富士山　１・・・キノコ

１９日（水）個＝金時山　１＋１・・・姉妹でハイキング

２０日（木）個＝身延山　１＋α・・・２Ｈのハイキング

事故報告・・・９月４日　事故者不明　５２歳（女性）

藤枝・清水山（？）藤ノ里トンネル近く　山登歩勤労者山の会

下山途中、ゆるやかな斜面で滑り、右**橈骨遠位端骨折（みぎとうこつえんいたん）**

報告書の文字が汚すぎる。

３．寄贈会報とピックアップ

「あしたか」　沼津勤労者山岳会　　１０月号　　NO.表記ナシ　　P６　　電子版

計画＝甲武信岳、魂の山・棚場山、矢筈山、富士山吉田五合目

報告＝毛無山（**上臈杜鵑・じょうろうほととぎす＝身分の高い女官）、富士山富士宮（今年７回）、ブロック会議、など**

「あさぎり」　あさぎり山の会　　１０月号　　NO.348　　P30　　電子版

報告＝国師岳・奥千丈岳（大弛峠往復）、仙丈ヶ岳・甲斐駒、鉢盛山（林道にゲートがあるが鍵を借りれば開けれる。最初から開けとけば）、御岳山（レンゲショウマを見に行く）、稲子岳・ニュウ、櫛形山、北八ッ池巡り

計画＝越前岳、大菩薩嶺、愛知・上臈岩（じょうろいわ）など。写真が多すぎると肝心の文が読みにくい。

「山梨山の会会報」　山梨山の会　　１１月号　　NO,306　　P19　　電子版

報告＝座学「山の観天望気」、「山道具のメンテナンス」、ベニバナシャクヤクについて。報告＝御坂・黒岳キノコ例会、南ア・鋸岳（山梨百名山達成）、北海道山旅、穂高岳、安達太良・磐梯＝２４名、木曽駒、葛野川。計画、ほか

「竜爪mini」　静岡勤労者山岳会　１０月号

報告＝茶臼岳（シュラフ持ち込みで 8000-、PM3:00 まで夕食可）、磐梯山、富士山・奥庭ハイキングと馬返し～吉田口（観光用馬が気の毒）など。

当面の行事・山行予定（原則、定例ハイクは、毎月、巡礼・富士山ウオーク週がある土曜日です）

日	曜日	１１月	日	曜日	１２月
1	火		1	木	
2	水		2	金	
3	木	好天日アルパイン	3	土	
4	金		4	日	
5	土	個人山行	5	月	
6	日		6	火	
7	月		7	水	
8	火		8	木	
9	水	伊豆巡礼	9	金	冬山訓練
10	木		10	土	
11	金		11	日	
12	土	定例ハイク	12	月	
13	日		13	火	
14	月		14	水	伊豆巡礼
15	火		15	木	
16	水	好天日・アルパイン	16	金	
17	木		17	土	定例ハイク
18	金		18	日	
19	土	個人山行	19	月	
20	日		20	火	
21	月		21	水	富士山ウオーク
22	火		22	木	
23	水	富士山ウオーキング	23	金	
24	木		24	土	忘年山行
25	金		25	日	
26	土	定例ハイキング　担当・井上	26	月	
27	日		27	火	
28	月		28	水	
29	火		29	木	冬山合宿
30	水		30	金	
			31	土	
			1	日	

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・山田敬　　写真・後藤
山 No.	1993
日　時	2022 年 09 月 17 日（土）曇
山　域	富士山周回（最高到達点＝１９８０ｍ）
コース	長泉６：００ー富士山洞門上駐車場７：３０ー二ッ塚コル（井上夫妻は上塚上り下り）ー四辻ー三辻（キノコ狩り）ー御殿庭下１０：３０（昼食）芋煮会（この間井上夫妻は御殿庭まで往復１時間）～１２：００ーバリエーションー幕岩１３：００ー駐車場１４：００ー裾野「美人の湯」ー長泉ー反省会
標高差	上り・下り　駐車場約１４３６ｍ～最高点１９６３ｍ＝約７００ｍ（やや長い）
藪漕度	なし
難易度	非常に困難　　困難　　やや困難　　レ普通　　やや易しい　　易しい
食の秋！富士山で初物を味わう	
参加者	後藤、井上弘、伊藤、井上初（一般）、長谷川（一般）、山田夫妻＝７名
ど～が～	http://susono-reihou.babyblue.jp/0000-52.mp4

今回の山行は予定では「キノコ鍋をやるよ！」ということだった。後藤さんからの事前連絡では、「鍋用に一人水 1ℓお湯 1ℓ持参」とある。上り下りの道中に飲む水も考えると、今までの 25ℓのザックでは入らない。

いずれ買わないといけないと思っていたから、前日に 40ℓ＋10ℓ のザックを購入。サーモスも買った。出費は痛いが、いい道具は道中が楽になる。ザックは試着してドイターにした。後藤さんに朝「ザックを新調しました」と見せたら「色が地味だね。もっと明るくないと写真が映えないねー」とカメラマン目線でコメント。

「え？そこ？」と思わず言ってしまったが、労山カレンダーに写真が採用された腕前だから説得力はある。

Ｙさん、苦戦？

はっきりした色の方が山の中で他の人が見つけやすいという正当な理由もある。しかし

最近のザックはアースカラーがトレンド。今風の色合いを後藤さんのカメラ技術で映えるように撮っていただくしかない。

私の妻の由美子さんも久々の参加。登山２回目で３ヵ月ぶりなので、コースはやさしめ。御殿場口新五合目駐車場あたりから７時３０分から登山開始。

ドド、ド〜ンと御殿場の演習場の五月蠅い音を聞きながら、砂道を二ツ塚のコルまで上がって行く。幸い曇っていて、直射日光は避けられたが、それでも暑い。道中、フジアザミが赤紫色に映えていた。

フジアザミ

由美子さんは久しぶりで、夏場も在宅勤務でずっと家の中にいたので、上がり 30 分で、すでにキツそう。井上夫妻は余裕があるので二ツ塚の上塚をめざす。さすが若い！
二ツ塚のコルを越えると、雲間に愛鷹山と駿河湾が見える。こういう景色がいい。風も少し感じられるようになり、歩きやすくなった。

９時過ぎに三辻に到着。荷物を置いて、きのこ狩りに出かけるが、収穫わずか。井上さんが食べられそうなきのこを見つけたが、食すには至らず。まだ時期が早かったようだ。

少し先の御殿庭下まで歩いて、３時間ほど経ったので、早めの昼食に。井上夫妻はさらに御殿庭にアタック。

「こんなこともあろうかと思ってさ」と、後藤さんが出してくれたのが、後藤さんが自分で作った安納芋。アルミホイルで包んでガスで焼いているので甘みがあっておいしい。靴を脱いで一杯やろうとしたころに後藤さん自家製第２弾の茹で落花生。ありがたくいただく。歯ごたえと塩加減がビールによくあう。

しかしながら、ザックと魔法瓶も買って持ってきたキノコ鍋はどうなるの？と思ったら、こちらも後藤さんがキノコの代わりに里芋をたくさん茹でて皮をむいて用意してくれていた。さすが後藤さん。

鍋にお湯と味噌と里芋を入れて、里芋のお味噌汁の完成。味噌は由美子さんの実家の秋田の味噌で、普段食べているお味噌と味は違ったと思うが、皆さんにはおいしく食べても

らった。井上夫妻も無事御殿庭から戻り、昼食に合流。
　こうやって山で、景色を眺めながら、ゆっくり食事をすることもいい。きこのゼロも想定して、秋の初物を準備してくれた後藤さんには感謝、感謝。

イモ煮会

　長めの昼食の後、12 時から下山開始。バリエーションで一気に砂道を下る。幕岩前に登り返しがあり、そこが少しきつかったが、あとは歩きやすく、ずんずん道を下って、2 時間ほどで無事到着。
　帰りに裾野温泉によって汗を流し、着替えてさっぱりしてから反省会。
食あり、運動あり、温泉あり。山は軽めだが、充実のコース。1 日満喫できました。

その他の記述（後藤）

１．お目当ての「ジゴボウ（花猪口・はないぐち）」は全くなかった。少雨と時期尚早。
２．富士山は既に閉山。静か。会ったのは、４名のみ。
３．フジアザミの鹿食害が酷かった。花はトゲがあるので食べず、その下の茎を食べている。これでは、「種が出来ず」アザミの繁殖に問題が生じる。
４．下山した「赤岩沢（仮称）」は、三辻から幕岩まで約１時間。周回コースとして使える。
５．帰路、再開した、裾野「美人の湯」で温泉。７００－。空いていた。

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・井上弘二郎　　写真・後藤
山行ＮＯ．	1994
日　　時	2022 年 9 月 25 日（日）晴れ、涼しい（9/24 前泊）
山　　域	八ッ・阿弥陀岳（2805m）南稜～中央稜周回
コース：	
9/24(土)	長泉 13:00-新東名-御坂 IC-中央道-小淵沢 IC-某所庭で夕食-某建屋下でテント（泊）-消灯 18:40
9/25(日)	起床 4:00-朝食、テント撤収、出発 4:35-舟山十字路発 5:34-堰堤-南稜-キノコ採りの方 6:23-立場岳 7:40-岩場前 9:00-三峰ルンゼ 9:28-阿弥陀岳頂上 10:40～昼食～下山開始 11:12-中央稜-中央稜取り付き 13:27-舟山十字路駐車場着 14:22-地元産直-鹿の湯-キノコ汁、カップ麺 16:30～17:30-長泉 19:30
標高差	舟山十字路約 1620m～阿弥陀岳 2805m＝約 1185m（累計 1215m）
藪漕度	上り・下り　なし
難易度	非常に困難　レ困難　やや困難　普通　やや易しい　易しい
今までで最高に厳しかった登山	
参加者	後藤、加藤、井上＝3 名
ど～が～	http://susono-reihou.babyblue.jp/0000-53.mp4

この連休は金土と泊まりの山行の予定だったが、台風大雨のため中止。しかし、日曜日完璧晴れ予報で、土曜の朝 6 時半、「明日山行けるか」のメールと、それに続いて、「今日の午後出られるか」のメール。

送られた計画書に書かれた持ち物はヘルメット、ハーネス、プルージック用シュリンゲ、皮手袋、テント泊とあり、何かとんでもないことになる予感がした。それから午前中は買い物や準備をして、午後出発に漕ぎつけた。

某所の夕食

ぬいぐるみ？？

現地に着くと、まず某所駐車場のトイレが使用可能か確認。続いて、テントが張れそうな場所を物色する。ここはダメ、あそこもダメと言いながら移動し、某駐車場下にテーブルとイスがある湖畔(池？)の綺麗なお庭を発見。池には「睡蓮」が咲いていた。

カヤックが有料体験できるようになっていた。駐車場を清掃していたホテルの支配人らしき人に、テーブルで食事をしてよいかと聞くと、OK。駐車場も宿泊者用の表示をわざわざどけて使ってよいと言ってくれた。大変良い人で気に入ってしまった。

聞くと、直近の静岡の大雨で家から出られなくなった客が２組キャンセルになったとのこと。素敵な環境で夕食を取った。ガスコンロで焼き鳥を焼いてビールとワインを飲んだ。

スイレン

当初の予定は某駐車場でテントを張ることにしていたが、当分他の客がいるのでテントはすぐに張れないので、別のテント設営場所を探した。すると、電気のついていない施設がある。入口の軒下がちょうど良い感じだったのが、しかし、勝手に使って後で出て行ってくれと言われても困るので、向かいの宿泊施設に、交渉人加藤さんが向かった。

恒例となった必殺技「泣き落とし」を使い、あっさり OK。自動ドアは作動しており、中のトイレも使ってよいとのこと。昨今のオートキャンプ場並みの環境となった。屋根があ

るのでテントが濡れなくて助かる。テントを設営しながら日が暮れ、ヘッドランプで行動。6 時半過ぎには消灯となった。雨は降っていないが、施設の雨どいに水が流れて落ち、音が一晩中鳴っていた。これが気になり、夜の 2 時ごろ、消音対策を実施しようやく静かになった。

上の二本がマツタケ

翌朝は 4 時起床。加藤さんが準備したうなぎ茶漬けをいただく。テントも撤収し、4 時半過ぎには、車で出発できた。辺りは濃霧。朝霧は快晴の兆しとのこと。某駐車場のトイレ（ウォシュレット）をすまし、舟山十字路を目指した。

駐車場は 10 台ほどの車で満車。少し下った場所に駐車した。準備を終え出発。林道が長い。寝不足感からか調子が出ない。前回の記録の大石がある分岐ではなくその手前で右に折れる。小さな川を渡る。急登を上がり尾根に出る。キノコ狩りの男性に会う。採ったキノコのなかに小さなマツタケもあった。2370m の立場山（2 万 5 千図では立場岳）まで 620m ほどグングン上る。キノコが多い。加藤さんのキノコ解説が続く。

立場山を過ぎると、しばらくなだらかで、いったん 30m ほど下る。景色が開け権現岳が見えた。空は青空、下界は雲海だった。岩場の手前でヘルメットとハーネスを装着し、ザイルを首にかけた。久しぶりのハーネスの装着で後藤さんが手間取ってしまった。

１０万円はないでしょう！！

立場山

青ナギ

三峰ルンゼに到着すると、加藤さんがトップで行く。続いて後藤さんが、加藤さんが上で確保したザイルにシュリンゲをプルージックにして取付けた。私はプルージックが初めてで、結び方と使い方をその場で教えてもらった。

4 年前に後藤さんと加藤さんは二人でこのルートに来ており、その時はノーザイルだったが、今回は初めての私のために、安全確保するためにザイルを使用してくれた。万が一にも、嫁入り前の娘を２人持つ私が落ちてはならないという気づかいであった。

ありがとうございます。そのために前回より時間がかかった。プルージックは習ったが、結局は、加藤さんが上からザイルを張って引っ張ってくれたので、それに頼る形になり、プルージックは使わなかった。

ちょっと残念だが、加藤さんは濡れた岩場に座り、ズボンが濡れた状態でザイルを引っ張ってくれたので、全く不安がない状態で登れた。これまた、ありがとうございます。とはいえ、三点確保は絶対で、気持ちの集中が途切れ、中途半端に判断していると、落下は免れないので、真剣勝負だった。

つかむところや足場になる岩のでっぱりは、ちゃんとあるので困ることはなかった。恐怖でビビらなければ、登る技術はさほど必要としないが、それでもザイルでつながれているからどんどん登れるが、つながれていなかったら、足がすくんでいたのではないかと今になって思う。

ルンゼを越えても、難所は続く。高所のため呼吸もきつい。しかし、加藤さんだけは、平常の鼻呼吸。コケモモの実がたくさんなり、時々もいでは口に入れ、甘く少し苦い味で気持ちがリセットされる。

阿弥陀岳南面

山頂に到着。4 人くらいいただろうか。犬もいた。出発して 5 時間以上もたつので昼休憩とした。だんだん人が増えてきた。装備が新しいにわか登山者が多い気がした。

周囲の景色はパーフェクトだった。八ヶ岳はもちろん、360 度ぐるりと富士山から北アルプスの槍ヶ岳まではっきりと見えた。赤岳は目前にせまり、最近登った天狗岳や硫黄岳が見えるが、今日登ったルートに比べるとハイキングの山に思えてしまう。

阿弥陀岳南稜はスリル満点だ。山登りにも緊張感があることを少し思い出した。冬の雪山は当然、天候によっては緊張感を体験するが、雪がない絶壁や難所で肝を冷やすような場面はなかなかない。下りは以前登ったことがある中央稜ルート。

下りに使うには厳しい斜面だ。南稜の登りに負けない緊張感が続く。まだまだビールはお預け。赤い色のヘリコプターが西から飛んできて、赤岳の中腹辺りでホバリングをしたり旋回したりしている。遭難者を探しているのだろうか。

ヘリコプターに気を取られ横を向いていると落ちそうな岩場を過ぎ、厳しい下りを抜け、樹林帯に入るが、まだ下りはきつい。残りの標高差があと 300m くらいになってようやく

三峰ルンゼ（俯瞰撮影）

緩やかになり、沢の音が聞こえ、木洩れ日のある苔に囲まれて場所で一服し、ここでビールを飲んだ。ほぼ常温だが、最高にうまかった。

環境も最高。絵画に囲まれているみたい。このあたりには黄色のキノコが群生している。高さは大きいもので 5cm くらい、傘はなく、耳たぶのよう。ひんやりとしてプニプニでグミのよう。

加藤さん曰く、富士山では人気のキノコですぐに採られてなくなり、サラダに入れるとおいしいらしい。ムーミンに出てくるニョロニョロのようにあちこちで伸びている。後で画像を調べるとカベンタケ？という名前らしい。ここから残りの下山をするが、今度は長い。一度、道を見失うが、スマホのアプリで確認し、道なき道を直進した。堰堤を左に巻くと道が再び現れた。また長い林道を下り、ようやく駐車場到着。

その後は、産直で買い物し、鹿の湯（700 円）で汗を流す。昨日の夕食と同じ場所で、鹿の湯で買ったカップ麺、カップ焼きそばを食べ、腹を満たす。

加藤さんが、山で取った花猪口（ジゴボウ）を産直で買った地元みそでキノコ汁を作ってくれた。味噌がよいのか、キノコがうまいのか、今まで食べたキノコ汁ではナンバーワンの味だった。その後、帰路につき、長泉に戻った。翌日、翌々日と筋肉痛が取れなかった。

以上

その他の記述（後藤）

１．２０１８年との比較

	前回	今回
十字路	５：４５	５：３４
立場山	７：５５・・・２時間１０分	７：４０・・・２時間６分
三峰ルンゼ取付	９：２０・・・１時間２５分	９：２８・・・１時間４８分
阿弥陀岳	１０：０５・・・・・・４５分	１０：４０・・・１時間１２分
阿弥陀岳	１０：３０	１１：１２
広河原沢出合	１２：００・・・１時間３０分	１３：２７・・・２時間１５分
十字路	１３：２３・・・１時間２３分	１４：２２・・・・・・５５分

＊結果的に、全体で約１時間の違いだが、これはルンゼでザイル使用か未使用かの差。広河原沢出合から十字路の差は、休憩時間の差と思われる。４年経過でも時間は変わらなかった。

２．前回は南稜で何人か会ったが、今回はゼロだった。

３．三峰ルンゼでザイルを使用の場合は、４０ｍが欲しい。ビレイポイントは、リングボルトが二ヶ所のみ。立木・岩もない。

４．山頂にいた犬は、足まで衣服を纏っていた。あれでは犬が可愛そうだね。

５．今回は、サイコーに厳しかった。山頂の阿弥陀様にお経を一巻。思わず眼がしらが熱くなった。

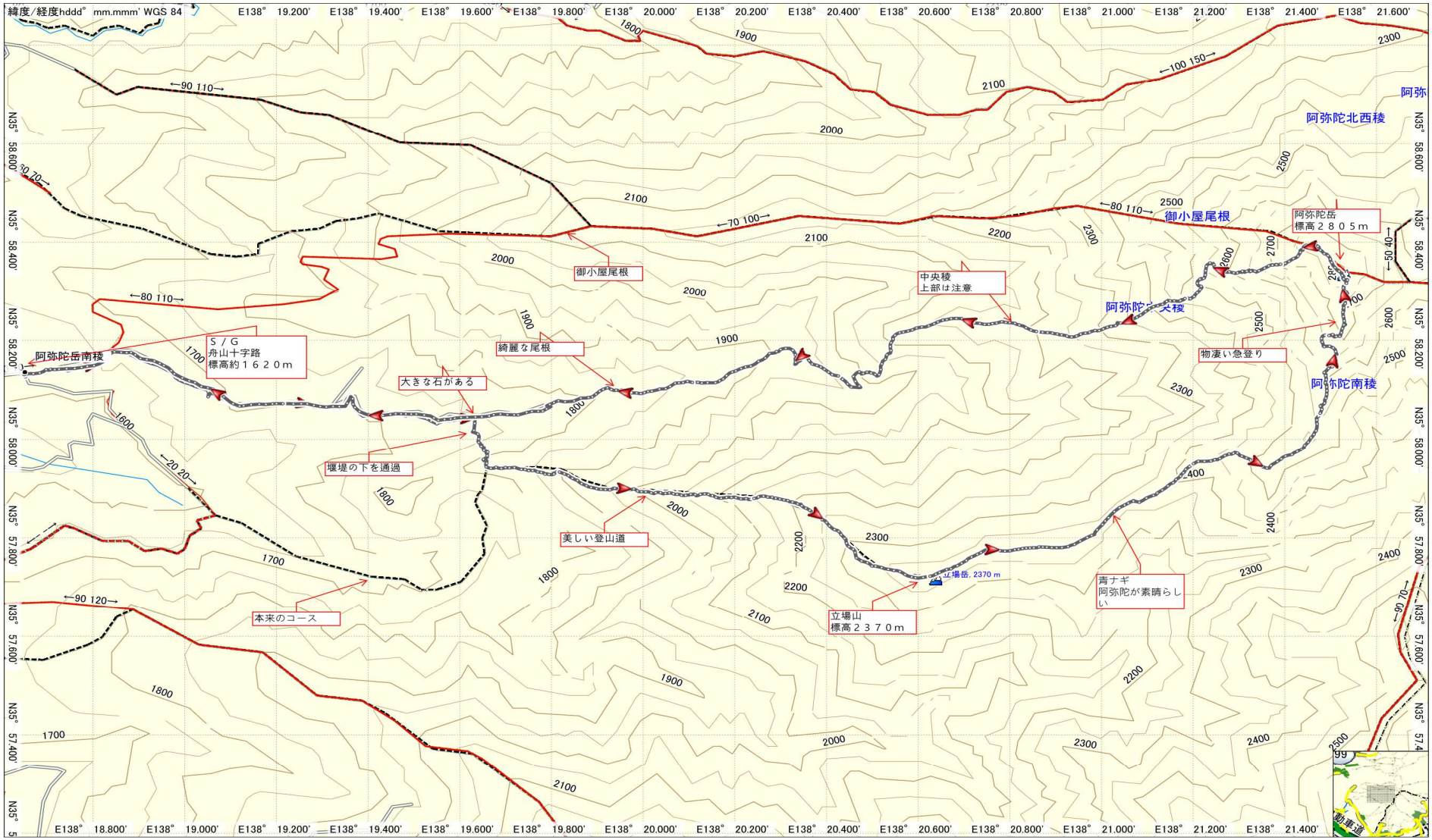
６．中央稜下降は問題ない。広河原沢出合が荒れていて、ルートが分かり難かった。

７．原村の産直は素晴らしい。カボチャ・キュウリ・ミョウガ・ソバ・リンゴ（シナノ・ドルチェ）を購入。

バックは権現岳、左が三ッ頭

三峰ルンゼ（下から撮影）

三峰下のトラバース


緯度/経度hddd° mm.mmm' WGS 84
阿弥陀北西稜
御小屋尾根
阿弥陀岳
標高２８０５ｍ
中央稜
上部は注意
阿弥陀中央稜
物凄い急登り
阿弥陀南稜
阿弥陀岳南稜
Ｓ／Ｇ
舟山十字路
標高約１６２０ｍ
綺麗な尾根
大きな石がある
堰堤の下を通過
美しい登山道
立場岳, 2370 m
立場山
標高２３７０ｍ
青ナギ
阿弥陀が素晴らしい
本来のコース
Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMapple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014
2018/09/24 5:32:26
GARMIN

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・山田敬　　写真・後藤
山行 NO.	1996-1
日　時	2022 年 10 月 08 日（土）曇
山　域	愛鷹連峰・越前岳（1504m）
コース	長泉 6:00-十里木駐車場 7:09-展望台 7:56-平坦地-越前岳 9:30～10:32（整備作業・昼食）-駐車場 12:35-Ｂ班合流-美人の湯-長泉
標高差	上り/下り　十里木駐車場約 870m～越前岳 1504m＝634m
藪漕度	なし
難易度	非常に困難　　困難　　やや困難　　レ普通　　やや易しい　　易しい
杭が残ったブナ植樹地手入れ	
参加者	後藤、伊藤、山田敬、山田由＝４名

今回の山行は、山の会で 20 年近く行っている越前岳ブナ植樹地整備が主たる目的。と、いってもまだ今春入会の私には、何をするのかよくわからないままのスタートだった。
思えば三島に来た時や新幹線から眺めるだけだったころは、愛鷹山と富士山は重なって見えるので富士山の麓の辺りを愛鷹山というのかと思っていたくらいだ。

武装集団？？

そして愛鷹山と富士山は別物ということが富士山に連れて行ってもらって知って、今回、初めて愛鷹山も実はいろいろな山の連峰だということを知った次第。知識や経験の有無で、同じ景色を見ていても感じることや情報量は違うと改めて実感。

今回は 2 班に分かれて行動することになっており、我々は十里木駐車場から越前岳に登る。出発前に一人 1 本ずつ白いペンキを塗った先の尖った杭を渡され、ザックにくくりつけて、見ようによっては「武装集団」のような装備で登り始める。

富士山を背に登っていく。途中の見晴らし台からは富士山の全景が間近に見える。富士山頂は雪がない。昨日まで数日雨が降っていたので山頂の雪景色を期待したが残念。

朝、富士山は見えた

我々以外にも、どんどん人が登ってくる。景観がいいし、山頂まで 1 時間 30 分くらいでいけるので登りやすいからだろう。しかし、登山者が多いゆえに、正規のルートは土がえぐられ、そこに雨が降ると水が流れ、道は川底のようにぐちゃぐちゃになっている。

後藤さんは「完全にオーバーユースだねえ」と嘆いていたが、気づくと靴は泥だらけ。泥道は歩きにくいし、すべって危ないので、道の脇を歩くようになり、そこはそこで踏み固められて、自然が荒らされていく。
山道を固定されて、階段がつけられたりすると、とても歩きづらく嫌だが、放置したままだと山の自然が荒らされる。
後藤さんは先に行ってしまったので、下山してくる人がいる方向が山頂だと思って、登って行った。すれ違う人に我々がザックにさしている杭を見て、「それ何ですか？」と聞かれ、山頂の整備のために使うみたいです。
やったことがないのでわかりませんが、ごにょごにょ、と語尾を濁して説明すると、「それはご苦労様です」とか「ありがとうございます」と言われた。そういわれると悪い気はしない。調子に乗ってがんばって、無事、越前岳山頂へ 9 時 30 分到着。

山頂はガスで展望はゼロ。せっかくここから富士山を見ようと思ったのにと登頂者は残念がっていたが、我々山の会にはブナ植樹地整備の任務がある。後藤さんは我々の到

着を

2001/06/01 の越前岳山頂

山頂の土も相当流失している

現在の山頂は約 50cm 低い

2022/10/08 驚異の自然治癒力

20 年でここまで回復

交換した杭

待って、ブナ植樹後の生育を山頂周辺の自然を守るために、朽ちた杭を 3 本抜いて 2 本入れ替え、ロープを張り直して境界を修繕した。

後藤さんの報告にある通り、植樹地はミツバツツジなど、物凄い繁茂で、ほぼ、かつての姿に戻ったそう。下山後に 20 年前の山頂の状態の写真を見せてもらったが、2000 年ごろは、確かに展望がいい斜面は木がなかった。20 年でこんなに自然は再生するということがわかり、いい勉強になった。

後藤さんが植樹地整備をしている間も、越前岳の山頂には次々と人が登ってくる。限られたスペースに人が密集して動いて、靴裏に土を持って降りていくので、山頂付近もどんどんえぐられているようで、昔に打ち込んだ境界石も数十センチ土に埋まっていた跡がむき出しになっており、後藤さんが三角点柱を触ってその説明をしていると、周りにいた人も驚いた様子で聞いていた。

4 本杭を持って上がったが、2 本使って、2 本は持ち帰り。結局、杭は残ったが、裾野麗峰山の会の今年のブナ植樹地整備は無事終了。山を守って、山を楽しむ大切さを学ぶ、いい機会でした。

新しい杭

その他の記述（ごとう）

１．今回、Ａ班＝越前・ブナ植樹地整備（４名）、Ｂ班＝大沢～鋸～位牌～前岳のブナ観察。Ａ班は３年振り。Ｂ班は恒例行事。十里木駐車場で富士のＫ姉御と合流し、Ｉ君を乗せて山神社に向かった。Ｂ班は飛ばして、Ａ班が駐車場に下山すると、程なく帰着。その速さに驚愕。

２．越前岳上り道は、相当、荒れている。このままでは、将来杞憂。某グループが「違法」で作った道は通行止めだった。しかし、仮に２０年で自然が回復するなら、「違法道」を通して既存の道を「閉鎖し自然回復」も手ではないか。難しい問題だ。

３．山頂流土は、ますます酷い。２００１年から比べれば、約５０ｃｍ流失した。この現実を行政や林野庁は、どのように考えるか。この状態は、今後も続くと思われる。我々、自然保護団体も見て見ぬふりでなく、声を上げなければならない。

４．帰路、美人の湯に入ったが入湯税が１５０－。Ｙちゃんが調査した結果、裾野市が以前負担していた１５０－を、市は財政困難を理由に利用者に負担させた結果と判明。

NO.10 ブナ

前回、2019 年 140cm だったが今回、約 2m に成長した

Ａ班メンバー

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・井上弘二郎　　写真・井上、加藤
山行 NO. 1996	
日　時	2022 年 10 月 8 日（土）曇り、涼しい
山　域	愛鷹連峰・ブナ結実度観察（大沢-割石峠-鋸岳-位牌岳-前岳-大沢周回）
コース	長泉 6:00-十里木駐車場-山神社駐車場の上発 7:13-大杉 7:57-割石峠 8:53-蓬莱山 9:11-鋸岳-位牌岳頂上昼食 10:49～11:10 下山開始-前岳 11:43-東沢終了 12:15-駐車場着 12:33-十里木駐車場で別隊に合流-温泉（ヘルシーパーク）13:10～14:15-長泉着 14:30
標高差	上り・下り　山神社 745m～位牌岳 1457m＝約 712m
藪漕度	上り・下り　なし
難易度	非常に困難　困難　レやや困難　普通　やや易しい　易しい
まるでジェットコースター	
参加者	加藤、井上＝2 名

今回は２つの隊に分かれ、私たち A 隊は位牌岳に行き、観測ブナの結実度調査を行い、もう一方の B 隊（後藤さん、伊藤さん、山田夫妻の４名）は越前岳で植生保護の柵の整備となった。
十里木駐車場で富士から来る加藤さんと合流し、加藤さんの車で山神社駐車場に向かう。いつもはこの駐車場に車を停めるが、その上のスペースに駐車した。かなりの悪路だったが加藤さんの運転技術で、ジムニーのように走破した。

NO.1　ブナ観測木（大沢）

出だしから速く、遅れないようについていく。途中、観測用の看板をつけたブナを探し、キョロキョロと辺りを見ながら登った。前日の雨で、沢にはたくさんの水が流れていた。大杉で一服。観測木を見つけると、落ちている実を探し、枝の葉や実を観察し記録をつける。今回は看板が見つからなかったものもあった。

NO.1　実生

沢の石は苔が付きすべりやすく注意して歩く。沢の本流を登っていく。本流と支流の違いは、本流は水量が多いため川底が深いと説明を受けた。沢を下ってくる単独の男性とすれ違った。今日初めて人とすれ違ったとのこと。トリカブトがよく咲いていた。お店の開店で見る胡蝶蘭のように茎に鈴なりに花が並んで咲いていた。
割石峠につくと次は蓬莱山。ヘルメットをかぶり、皮手袋をつける。鋸岳では、足元に草が多く、地面が見えにくいので注意を要する。道幅は狭く、所々欠落しており、緊張感が続く。ロープや鎖があれば、つかんで体を引き上げる。加藤さんが風邪薬になるセンブリやシラヒゲソウを発見。岩場では長さ 20 センチのヒルがいた。その他に 30 センチ、50 センチのテッポウミミズがいた。山の生き物はでかい。
鋸岳が終了するころに、道の右側がすっぱり落ちているところで、草むらでガサゴソと音がして、右の崖をザザーと下りていく音が聞こえた。加藤さんが「カモシカだ」といった。すごい急斜面を下っていったようだ。
　3 時間半で位牌岳頂上に到着。20 分休憩し昼食とした。水神社方面から 2 名の男女が登ってきた。位牌岳頂上の観測木の隣の木にツキヨダケが生えていた。加藤さんがツキヨダケの柄に黒い印があると説明しようとカサに触れた瞬間、携帯電話の着信音楽が鳴ったので、ひどく驚かされ、大笑いをした。
　前岳まで観測木を探しながら進む。前岳からは東沢の堰堤を目指し北の尾根を下るのだが、加藤さんはおそろしく速い。天狗を見たことはないけれど、頭に浮かぶのは「天狗のような」という表現だ。なにせ速い。昔、山の会に入った 2006 年頃、初めてこのルートを下った時、後藤さんや加藤さんの下るスピードが速すぎて全くついていけなったが、その時を彷彿させる。
位牌岳頂上を出てから約 1 時間で東沢を下った。そこからは約 15 分で駐車した場所に戻った。まるでジェットコースターのような山行だったというのが率直な感想だった。ガシガシと容赦なく登り、鋸岳のアップダウンを繰り返して、前岳の下りでは重力に体重を預けて自由落下のように下った感覚だった。すごいアクション映画を一気に観て、気が付いたら終わっていたという感じ。愛鷹連峰は近くて、十分に堪能できる場所だ。

十里木の駐車場に戻り、駐車場を出る直前だったB隊に合流。ヘルシーパークで汗を流し、14:30には長泉に戻った。翌日からの全身筋肉痛は4日たった今も続いている。
以上

鋸岳

NO.10　ブナ観測木（前岳山頂）

愛鷹連峰・ブナ定点観察表

観察山域・第一ブロック（大沢～割石沢～割石峠～呼子岳～割石峠～鋸岳～位牌岳～前岳～大沢）

2000/07/11～　　観察者・裾野麗峰山の会

N　0		1	2	3	4	5	6	7	7－1	7－2	7－3	8	9	9-1	10	11
場　所		割石沢	割石	割石峠下	呼子岳	蓬莱山前	鋸１	鋸２	鋸・北間	鋸・北間	北面コル	北・位牌間	位牌頂上	位・前間	位・前間	前岳頂
標　高		995m	1080m	1240m	1313m	1260m	1230m	1300m	2019～	2019～	2019～	1320m	1457m	2019～	1375m	1336m
樹　高		20m	10m	15m	10m	7m	6m	8m	〃	〃	〃	12m	15m	〃	10m	15m
目　通		71ｃｍ	17cm	66ｃｍ	35ｃｍ	28ｃｍ	16cm	23cm	〃	〃	〃	40ｃｍ	67ｃｍ	〃	45ｃｍ	55ｃｍ
愛　称		まりこ	孝子	ひろこ	ひでこ	かずこ	節子	敏江	〃	〃	〃	ともこ	かがみ	〃	みつえ	ちよ
季　節		春　秋	春秋	春　秋	春　秋	春　秋	春秋	春秋	春　秋	春　秋	春　秋	春　秋	春　秋	春　秋	春　秋	春　秋
2000/07/01	10/07	４　○	４○	５　○	２　△	未　○	未○	未○	2019～	2019～	2019～	４　○	４　○	2019～	４　○	３　△
2001/08/19	10/21	４　未	４未	４　未	４　未	未　未	未未	未未	〃	〃	〃	３　未	４　未	〃	４　×	３　×
2002/06/23	11/17	４　×	４確	４　△	２　×	３　×	４×	２×	〃	〃	〃	３　×	４　×	〃	４　△	３　△
2003/06/01	06/01	４　×	４△	未　△	未　×	未　×	未×	未×	〃	〃	〃	未　△	未　△	〃	４　○	４　○
2004/6/27	6/27	4　×	4　×	5　×	4　未	3　未	３未	３未	〃	〃	〃	3　未	４　×	〃	4　×	4　×
2005/06/05	10/27	４　×	４×	４　×	４　未	４　未	４未	４未	〃	〃	〃	４　×	５　×	〃	４　×	４　×
2006/06/11	10/22	４　○	４×	５　○	４　×	４　×	４×	４×	〃	〃	〃	３　○	４　○	〃	４　未	４　未

2007/06/10	10/14	4 ×	4 ×	5 ×	4 ×	4 ×	4 ×	4 ×	〃	〃	〃	5 ×	5 ×	〃	4 ×	4 ×
2008/06/15	11/09	4 未	4 未	3 未	4 未	4 ×	4 ×	5 未	〃	〃	〃	4 未	4 未	〃	4 ×	4 ×
2009/05/16	10/17	4 ×	4 ×	4 ×	未 未	未 未	未 未	未 未	〃	〃	〃	4 ×	4 ×	〃	4 ×	4 ×
2010/ 春未	10/23	4 ×	4 ×	4 ×	未 未	4 ×	4 ×	5 ×	〃	〃	〃	4 ×	4 ×	〃	4 ×	4 ×

活力度判定　５＝健全　４＝ほぼ健全　３＝やや衰弱　２＝衰弱　１＝衰弱大　０＝枯死

結実度判定　〇＝豊作・沢山付いている。沢山落ちている　△＝普通・まあまあ。多くも なし、少なくもない　×＝不作・全くない。ほとんどない

（参考＝◎・特筆すべき結実）

メモ

１．２０１０年春＝春は藪が多く、ダニ被害があるので、活力度は秋に行った。

２．２０１３年秋＝鋸岳の岩場には５～１０年の幼木多数あり。ＮＯ．４呼子岳頂上、ＮＯ．６鋸岳は、木に沢山実が残っていた。よって本年は全山で豊作と思われる。

３．２０１７年秋＝大豊作だった。特に位牌岳大ブナは、枝に沢山ついていた。

４．位牌岳～前岳間の縦走路には、５～１５年生の幼木が約１００本以上ある。

２０１１年・第一回調査　http://susono-reihou.babyblue.jp/53.pdf　２０１９年・第二回調査

５．春未実施の場合、秋観察で活力度を確認した・確認する年度がある。

６．ブナ観測かブナ観察かは、佐藤先生の論文にならい、「観察」で統一した。

７．２０２０年度＝豊作だった。呼子岳～越前岳間縦走路にブナ幼木が多い。

８．２０２３年度＝看板不明が多く、慣れた観察者なら問題はないが、観察木特定が難しかった。（人為的に外された可能性あり）今年度は、観察木が少なく、全体評価は難しい。

２０２２・ブナ観察の記録

No	場所	活力度	結実度	備考
1	割石沢	4	○	実の粒が大きい
2	割石沢	3	○	枝の葉少ない
3	割石峠下	4	○	-
4	呼子岳	-	-	今回はパス
5	蓬莱山前	4	×	風で飛ばされたか。実は落ちていない。
6	鋸岳１	-	-	看板不明
7	鋸岳２	3	×	-
7-1	鋸・北間	-	-	看板不明
7-2	鋸・北間	-	-	看板不明
7-3	北面沢コル	-	-	看板不明
8	鋸・位牌間	3	△	-
9	位牌岳頂	3	×	看板なし、幹に苔が多くついている
9-1	位・前岳間	-	-	看板不明
10	位・前岳間	4	○	枝に実が多い
11	前岳頂上	4	△	看板落下

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・写真　後藤
山行 NO.	1997
日　時	2022 月 10 月 18 日（土）晴れ・涼しい
山　域	奥秩父前衛・小槻山（古那羅山・1713m）南西尾根～西尾根
コース	長泉 5:30 ー牧丘・道の駅（トイレ）ー塩平ー南西尾根水道施設 7:51 ー１回目林道８：56－２回目林道－１５０８m峰－二五六の大きな岩 9:53 ー小さな岩場 10:22－幕岩からの道 10:31 ー小槻山 10：43～11：40 ー西尾根―塩平上の林道 13：35－南西尾根付き 14：04－鼓川温泉―長泉 18：00（反省会）
標高差	南西尾根・水道施設約 940m～小槻山 1713m＝約 773m
藪漕度	なし
難易度	非常に困難　困難　やや困難　レ普通　やや易しい　易しい
全山穴だらけのイノシシ山	
参加者	後藤、井上、山田敬、伊藤、斎藤＝5 名

定例ハイキングで久しぶりの小槻山。南西尾根は、２０１６年１１月２６日以来。前回と同じ水道施設脇から上り出す。猟か林業かの軽トラが２台あった。例によって、最初から物凄い急登。ジッと耐えて頑張るだけ。それでも、ひところ頃より、気温が低くなり楽だった。

南西尾根

やがて最初の林道。林道は南西尾根を絡むように伸びている。遅れた仲間を待って、再び出発。ここから再び急登。

今回の山道は、いわゆる「バリエーション」と呼ばれるもので、「登山道」はない。が、上る尾根は特に藪もなく快適に上れる。

「バリエーション」は、他の登山者は、まず居ない。従って極めて静か。更に登山道が無い故に、自身が「洞察力」を持って、上り・下らなければならない。

特に下りが難しい。上りは、高い所を目指して行けば山頂に着く。下りは、なかなかそうは行かず、沢山の尾根を吟味し、正しいルートを見出す「観察力」が必要だ。事実、今回も大いに苦戦した。

大岩

それにしても、この山は一体何だろう。山中が穴だらけだった。それが登山口から延々と何時間も続いた。穴は、恐らく「イノシシ」のモノ。

これだけの穴があるということは、恐らく、何十（百？）頭のイノシシの仕業だろう。小楢山は「イノシシ山」だった。

紅葉は、ちょっと早い感じだったが、随所に見ごろのモノがあった。山梨北部まで来ると、静岡に少ない「赤」を楽しめる。

小さな岩場を越えると、「差山」や「父恋いし」の登山道と合流する。バリエーションはここで終了し一般道になる。少し下ると看板があった。「母恋し」「妙見山」「幕岩」「焼山峠」「山頂」の分岐。

山頂は、１０分程度で到着。今回の山は、バリエーション妙味だが、何といっても山頂の展望が「売り」だった。ところがどうだろう。自称「晴れ男」のＹちゃんが居るにも関わらず、生憎のガスだった。

ただ、ガスは低く垂れこみ、上空は晴れて時々、青空が覗く。しかし、まあ、これだけはどうにもならないので、そそくさと昼食にした。昼食を食べていると、何処かのアベッ

クがやってきた。若い女性が眼前の景色に見とれたのか、何故か皆の前で、ものの見事に「バタン」と転倒した。足元に丸い岩があったのだ。

一瞬、全員凍り付いたが、その後、「全員で大笑い」だった。彼氏・彼女も大らかの方で、その模様を大笑いで、山頂は大いに「盛り上がった」

彼氏・彼女は、夫婦でなく、友人・恋人だった。しかし、若い方はイイ。何があっても笑って過ごしている。そんな感じは、実に微笑ましかった。

そのうち、何かの弾みで甲州人の話題になった。曰く「甲州人と甲州べー（牛）は、気を付けろ（牛の糞の表面は硬いが中はグジャグジャで踏んだら最悪）」になった。以前の御坂・キノコ屋の顛末、その後の河口湖・ソバ屋のトラブルで盛り上がった。

しかし、その後、この日は、意外な所で甲州人の「気風の良さを」感じることになるとは、この時、思わなかった。

転倒した彼女に記念写真を撮ってもらい下山。結局、霧は晴れなかった。残念。さあ、ここから下山がポイントだった。前回は、ナビも無かったが、少しルートを外しつつもマアマアだった。しかし、今回はどうだろう？？

一般道から、バリエーションに入る。帰着しＧＰＳ軌跡を見たが、５０ｍほど下った所で、既にルートを外していた。いつも一番感じることは、実際の地形と地図のイメージが違うことだ。

今回は、右に大きく深い谷があった。地図では、その沢がどう見ても見いだせない。難しいものだ。

大昔は勿論、ＧＰＳなどなかった。ＧＰＳ導入のキッカケは、２０１６年４月３０日、ＫＳ、ＫＹ、私で唐松岳に上った際、物凄いガスによる「完璧なホワイト・アウト」で苦労した。「ホワイト・アウト」は、富士山でも何回か経験している。深いガスで二ッ塚から下りで難儀したこともある。

「ホワイト・アウト」は、ビギナー・ベテラン関係ない。その時、冬も何回か上っている唐松山荘がどうしても分からなかった。時間は迫り夕方になった。完全に「遭難」の言葉が過った。小屋が分からないので、下山を始めた。そうしたら、下から誰か上って来た。小屋の方だった。九死に一生を得た。

ガスは翌日も酷く、縦走は断念し下山。しかし、皆はガスの中の下山に躊躇し、小屋から誰も出てこない。我々ともう１パーティーのみ。「ホワイト・アウト」は、昨日と変わらなかった。兎に角、自身の１ｍ円しか分からない。

上部の岩稜は、何処が山で、何処が絶壁か全く分からず、恐怖の下降だった。その時、もう１パーティーの方がＧＰＳを携帯していた。ＧＰＳは、昨日上って来た軌跡が残っているので、それを辿れば安全に下れる。

しかし、それでもダメだった。大いに迷った。生涯で初めて「リング・ワンデリング」（一回歩いた所に回りまわって、再び歩くこと。当事者は、初めてと思っている）を経験した。結果は、惨憺たるものだった。

西尾根

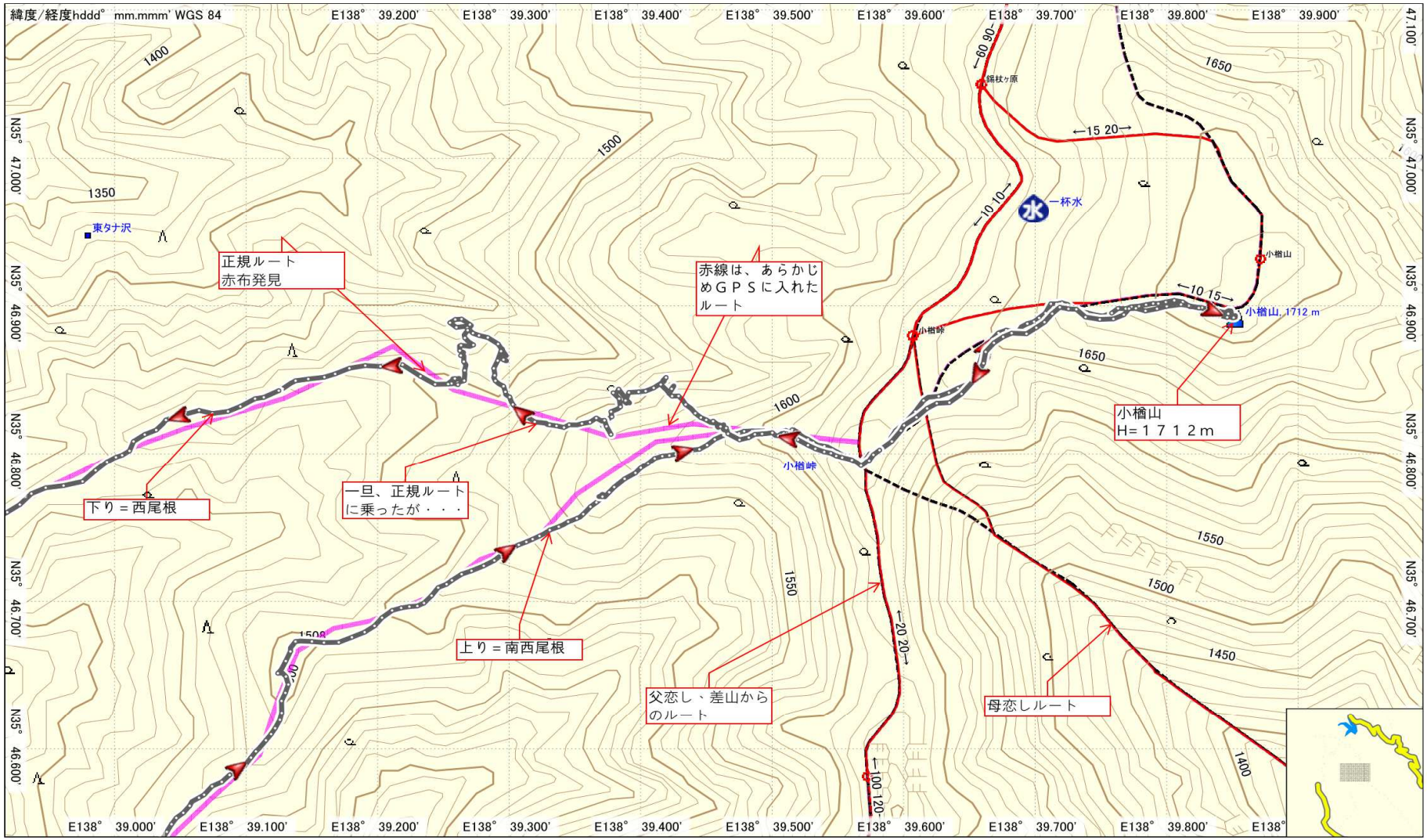
結局、前回、２０１６年１１月は、それ程の「外し・迷い」は無かったが、今回はご丁寧にも２回「外した」まだまだ、「精進・研鑽」が必要ですね。

参加者一言

井上・・・尾根の始まりを見極めるのは難しいと改めて思い知らされました。地図読みの練習は大切ですね。

山田敬・・自分の YAMAP の軌跡から俯瞰してみると、結果的に大きくは外れていない（修正しながら進んでいる）ので、バリエーションを行くというのは多少の行ったり来たりを含むものと思って臨めばいいのかなと思いました。

西尾根



Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMapple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014

2022/10/16 5:40:12

0 m 75 m 150 m 225 m 300 m

GARMIN

日本勤労者山岳連盟
静岡県勤労者山岳連盟・東部ブロック
長泉裾野・麗峰山の会（愛称・れいほう山の会）
会報「れいほう」
第 28 期・8 巻　2022/11 月号　NO.255
連絡先 静岡県駿東郡長泉町下土狩 1541-12 徳山荘
090-8956-9990 055-986-6075

HP　http://susono-reihou.babyblue.jp/
Mail　takanori_reihou8888@yahoo.co.jp

２０２２．１０．２０　会津朝日岳（１６２４ｍ）